

うしみさらダボール子育て情報

「言葉は文化」

令和8年1月14日号

板橋富士見幼稚園



子ども同士を繋ぐ言葉

子育てをしていく上で一番大切なことは、「多様性に富んだ環境」で十分に遊べることです。なぜなら、子どもは様々な物事に好奇心や興味関心を抱き、遊びを見つけ、継続しようとするからです。継続して遊びができると、思考が働き、言葉が豊かになっていきます。そして、言葉が豊かになることで、人との関係が密になり、互いの思いを出し合い、さらに言葉が広がっていきます。

特に自然の世界は、多様で変化や刺激にあふれています。自然環境の中でたくさん遊べるようにしてあげると、新しい言葉がどんどん生まれ、仲間と言葉で自分の思いを伝え合い、共感したり共有したりしながら、さらに言葉を獲得していきます。大人が気づかないうちに、耳慣れない新しい言葉を獲得していることも多々あります。

言葉は時代や生活と共に変化していくものです。子ども達の遊びの中の言葉でも、死語のように使わなくなっていくものがあります。最近の園でのお店屋さんごっこのお会計は、お金だけではなく「クレジットカード」や「スマホ決済」で支払う模倣をする子どもが増えていて、驚くばかりです。大人が現金をあまり持ち合わさない時代になったことで、子どもの遊びも、そのような姿や言葉に変化しているのです。オンラインショッピングも日常化している現代では、今後もしかすると、生活の中で実店舗での買い物の機会も減っていき、人と人が出会い会話を通して買い物をする楽しさを味わう経験自体がどんどん少なくなっていくかもしれません。



【お正月あそび】

コマ回しや凧あげなど、お正月ならではの遊びを楽しんでいます。

せめて幼児期には、互いの顔を見合わせ、多様な環境の中で感情を伴う対話を大切にしながら、豊かに言葉を育んでいきたいものです。

